みやこ町歴史民俗博物館

博物館だより

No.69

平成24年1月1日
みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL0930-33-4666
FAX0930-33-4667

友の会文化講演会は1月29日(日)

博物館友の会主催の文化講演会を次のとおり開催いたします。ぜひ、お集まりください！

■日時　1月29日(日)13時30分～
■場所　当館研修室
■演題　「御所山古墳の調査について」
■講師　苅田町教育委員会　調査担当　若杦善満氏
■備考　友の会会員以外の方の聴講は資料代実費三〇〇円が必要です。

1月の歴史講座

【漢詩文講座】
1月7日（土）　9時30分～

【古典かな講座】
1月21日（土）　9時30分～

【古文書講座】
1月21日（土）　13時30分～

【金曜古文書講座】
1月27日（金）　10時00分～

【みやこ学講座】
1月28日（土）　10時00分～

臨時休館のご案内

館内整理および燻蒸作業のため、2月6日（月）～10日（金）の間、博物館は臨時休館いたします。

臨時休館中、博物館および文化財業務に関することについては、左記へお問い合わせ下さい。

教育委員会　生涯学習課
TEL 33-3114

古墳フォーラム開催記念「歴史たんけん作文コンクール」最優秀作品紹介

11月26日開催の「みやこ町古墳フォーラム」では記念の作文・絵画コンクールが開かれ数多くの素晴らしい作品が寄せられました。その中から最優秀賞に選ばれた作文をご紹介します（絵画作品の最優秀賞は「広報みやこ1月号」をご覧下さい）。

「ひいおじいちゃんの宝物」

諫山小学校　五年　有馬　樹

ぼくの住んでいる「みやこ町勝山宮原」には、三百年もの間、毎年花を咲かせ続けている千女房桜があります。ヤマザクラとしては県内くっ指の桜で、町指定の天然記念物に指定されています。宮原区では、毎年桜の咲くころ、「桜まつり」が開さいされて、区の人達が作った新せんな野菜などを売っています。このような観光名所ですが、この千女房桜の土地について調べてみると、いろんな秘密があることが分かってきました。今からその秘密を紹介します。

桜の近くには大昔、あま寺があったということです。今では想像もつきません。なぜ、それを知ったかというと、ぼくのひいおじいちゃんが、桜の近くで、約六百年位前の「どうせいわにロ」を見つけていたからです。お父さんによると、ひいおじいちゃんは、「これはすごいお宝ぞ。」と言いながら、よく見せてくれたそうです。そこで、お父さんが博物館に持って行って調べてもらったというのです。調べてもらって分かったことは、千四百三十六年に作られた「福岡県指定文化財のどうせいわにロと全く同じ大きさで同じ形だったということです。」今はプラスチックの箱の中に、ふわふわの綿のようなものの中にしまわれています。ちょっと見ただけでは、すごい宝物には見えませんが、博物館にあるものとならべてとった写真を見ると、貴重な文化財だなと感じました。

ところで、桜のそばには、ひいおじいちゃんの土地があります。ひいおじいちゃんは原野を昭和十年十二月一日から開こんしたというのです。ひいおじいちゃんの書き残した書を見ると、「雨の日は合羽を着て、雪の日は雪をかき分けながら開こんした。」「何年もざせつしかけた。」「血のにじむような作業だった。」「なしとげた時のうれしさを言葉にできない。」等と書かれていました。その開こんの中で、この「どうせいわにロ」を見つけたというのです。だから、くわが打ちこまれたあとが、残っています。

お父さんに、いろいろと質問していると「千女房桜のそばに、ひいおじいちゃんの碑があるのを見たことがなかった。」と言われました。二人で見に行くと「開こん記録」があったのです。ひいおじいちゃんの残した書が短くまとめられたものでした。今まで全然気がつきませんでした。「樹、しっかり覚えておきなさい。」と言われているような気がしました。

千女房桜は花が咲いたときによく見に行っていましたが、ただ花を見ているだけでした。しかし、今回よく調べたことで、ひいおじいちゃんの苦労やあま寺のこと、どうせいわにロが見つかったことなどが分かりました。これからぼくは、ひいおじいちゃんが開こんした土地を守って、未来につないでいきたいです。

11・12月の業務日誌から

11月23日（水）、宗像市を主な訪問地とする博物館友の会バスハイクが行われました。世界遺産暫定リスト入りした海の豪族・宗像氏ゆかりの文化遺産を見学してきました！

12月3日（土）、博物館友の会恒例の「三重塔すすはらい」が行われました。心配された雨も大降りにはならず、1時間ほどで塔の内外がきれいになり、新年を迎える準備が整いました。

▲29名の皆さんがボランティアで参加されました

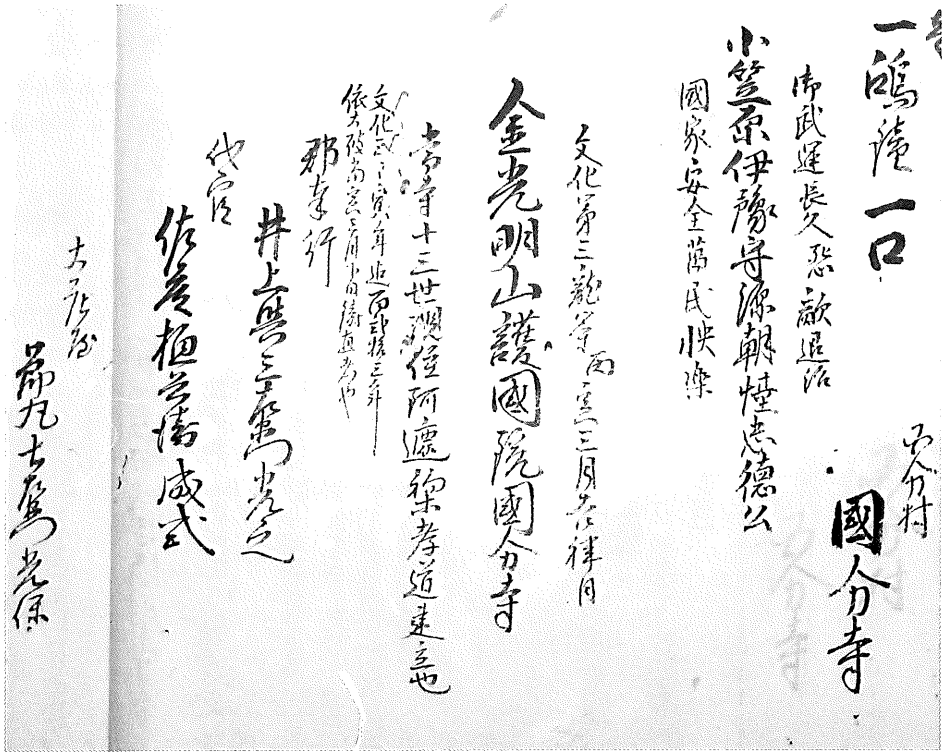
▲宮地嶽古墳（福津市）のある宮地嶽神社にて

みやこの歴史発見伝 51

古文書が語る村の生活と文化 6

豊前国分寺の鐘

【史料】



（後略）

（永井文書一三六号「安政二年 仲津郡諸寺院梵鐘書上帳」）

安政二年諸寺院梵鐘書上帳

上に掲げた史料は、安政二年（一八五五）に作成された「仲津郡諸寺院梵鐘書上帳」という史料のうち、当時、仲津郡国分村（現みやこ町国分）の豊前国分寺に存在した梵鐘の銘文を写した部分です。この年、幕府は外国船の襲来に備えるため、全国に向けて、寺院の梵鐘を鋳潰して大砲をつくるよう命じました。梵鐘を毀して大砲に鋳替えることを四字熟語風に「毀鐘鋳砲」と言いますが、この「仲津郡諸寺院梵鐘書上帳」は、幕府の毀鐘鋳砲令に対応する準備のため、小倉藩が領内の梵鐘を調査した際に作成されたものです。ただ結局、同じ安政二年一〇月に起きた「安政の大地震」の混乱により、毀鐘鋳砲令は実行されずに終わりましたが、梵鐘調査が徹底して行われたお蔭で、安政二年段階で存在した梵鐘の数量・内容を知ることが出来るのです（但し、郡単位で「諸寺院梵鐘書上帳」の現存が確認されているのは、仲津郡と田川郡のみ）。

国分寺の鐘

さて、上掲の史料を、（後略）としたところも含めて活字に直すと次のとおりです。

一、鴻鐘一口　国分村　国分寺
　御武運長久怨敵退治
小笠原伊予守源朝□（忠）忠徳公
　国家安全万民快楽
　文化第三龍集丙寅三月吉祥日
金光明山護国院国分寺
　当寺十三世現住阿遮梨孝道建立也
　文化三丙寅年迄百弐拾三年
　依大破当寅三月下旬鋳直者也
　郡奉行　井上與三左衛門光之
　代官　佐藤桓兵衛成式
　大庄屋　節丸七左衛門光保
　　平嶋九郎左衛門近房
　　国作健兵衛致恭
　　長井甚左衛門宗勝
　　元永圓蔵保房
　此外庄屋中寄附人等名前段々御
　座候得共相記不申候

この洪鐘（大鐘）は、文化三年（一八〇六）に鋳造されたもので、施主は当時の仲津郡奉行・井上與三左衛門、代官佐藤桓兵衛、郡内の大庄屋中、庄屋中及びその他の寄附人であったことが分かります。「仲津郡諸寺院梵鐘書上帳」で他寺院の梵鐘を見ても、郡方支配にかかる役人が、このように梵鐘の寄進にかかわった例はありません。これは、国分寺が一国一寺の勅願寺という由緒を持つことから、特別な取り計らいがなされた結果と考えられます。銘文から、この梵鐘は、一三三年前（貞享元年＝一六八四）につくられた梵鐘が破損したため鋳直されたものであったことが分かります。

▲豊前国分寺「鐘楼門」（貞享元年＝1684）建立

現在ある豊前国分寺の鐘は昭和五十四年に檀家中から寄進されたものです。文化三年鋳造の鐘は、文久三年（一八六三）に小倉藩が独自に行った毀鐘鋳砲か、あるいは昭和十六年（一九四一）施行の金属回収令による供出で失われたものと思われます。

国分寺鐘楼門

ところで、豊前国分寺の鐘が架かる鐘楼門は、貞享元年（一六八四）に建立されたものです。文化三年鋳造の鐘が、元々は同じ貞享元年鋳造の鐘を鋳直したものであることから、鐘楼門と鐘はセットでつくられたことが分かります。

ただ、この国分寺鐘楼門は、既に幕末期には建設から約一八〇年が経過していたため、かなり痛みが進んでいました。記録では、万延元年（一八六〇）と慶応二年（一八六六）に修理を行っていることが分かります。また、そこからさらに約一四〇年以上が経過して腐朽が進んだため、平成十九年に大規模な修理が行われました。この時の修理ではご住職のご理解とご尽力により、文化財的価値が損なわれないよう専門的な工事が行われたため、今も三百年以上前と同じ姿を保っています。

（川本英紀）

（掲載した史料は九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門蔵）